

「親の学習」プログラム

4-4

社会のマナーやルールは家庭から

社会が求めるマナーやルールは、家庭の教えが基本です。自分も人も大切にする社会は、マナーやルールがしっかり定着した社会です。

ここでは、マナーやルールが身につく育て方について考えてみましょう。

ワーク 1

こんな行動のお子さんを見かけませんか？
意見交換してみましょう。

道路にゴミをポイッと投げ捨てる子



近所の人にあいさつをしない子

バスや電車でお年寄りなどに席をゆずらない子

ワーク 2

子どものマナーやルールが低下していると言われていきます。このことについて、あなたはどのように思いますか。グループで話し合ってみましょう。

そんなに厳しく
言わなくても…



ワーク
3

子どもにマナーやルールを身につけさせたい時、あなたはどんなかわり方をしますか。
2人組になり、親役と子ども役に分かれて、次の会話を続けてみましょう。



子ども：「遊びに行ってきたいい？」

親：「そうですね…」

子ども：「ねえ、いいでしょ！」

親：「
」

・

・

・

ふりかえり

①あなたのお子さんのマナーチェックをしてみましょう。

安心：◎ もう少し：○ まだまだ：△ 心配：▲

場や人に応じたことばづかいができますか？	
あいさつが自分からできますか？	
バスや電車でお年寄りなどに席をゆずることができますか？	
食事の仕方はどうですか？ (出された物は残さない、箸やスプーンなど正しく持てる、食事中姿勢をくずさないなど)	
物の受け渡しをていねいにできますか？ (食べ物は投げて渡さない、刃物の刃先を相手に向けて渡さないなど)	
狭い道（廊下）ですれ違う時に、相手に道をゆずることができますか？	
公共の場に応じた声の大きさを会話ができますか？	

②マナーやルールが身につく家庭環境をつくるためには、どんなことを心がけたらよいか、書いてみましょう。

資料

ルールって
だれのためにあるんだろう。

子どもたちは、家庭でのルールや約束を守ったり破ったりしながら、人との関係の在り方や社会のルールの大切さを学んでいきます。

家庭のルールには、あいさつ、家に帰る時間、寝る時間、きちんとした姿勢などの生活上のルールもあれば、他人に迷惑をかけない、うそをつかないなどといった道徳上のルールもあります。

しつけに一貫性をもたせ、しっかりと身につけさせるためにも、夫婦がよく相談してはっきりしたルールをつくり、子どもとともに親もそれを守りましょう。また、子どもの意見を聞いて一緒にルールをつくるという姿勢も大切です。

ルールを守るものは、
ルールに守られる。

「家庭教育手帳」文部科学省（平成18年度版）

現代にも通じる「江戸しぐさ」

傘かしげ…雨や雪の日、道路ですれ違うとき、相手も自分も傘を外側に傾けて、一瞬、共有の空間をつくり、さっとすれ違う。お互いの体に雨や雪のしずくがかからないようにするとともに、ぶつかって傘を破らないようにする。

肩ひき…狭い道路や路地、またはこみ合う道路で、前方から人がきたとき、お互いに右肩を引いて、体全体を斜めにし、胸と胸を合わせる格好ですれ違うしぐさ。

こぶし腰浮かせ…あとから乗ってきた新しい客のために、腰かけている先客の二～三人は、腰の両側にこぶしをついて軽く腰を浮かせ、少しずつ幅を詰めながら、一人分の空間をつくる。

七三歩きのしぐさ…道路の七分めは公道とし、自分の道は三分めと考えて歩いていた。こうして道をあけておくことで、いざというときにはいつでも、けが人を戸板に乗せて運ぶ人も、急ぎの人も気がねしないで往来できる。

うかつあやまり…人ごみの往来で足を踏まれたときに、踏んだ方はいうまでもないが、踏まれたほうも「こちらこそ、うっかりいたしまして」といって謝る。



越川禮子著 講談社新書「商人道「江戸しぐさ」の知恵袋」（平成13年）